

秋田県立横手高等学校（全日制課程）中期ビジョン（五か年計画）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

① 学校の現状や課題

本校は明治31年（1898年）の創立以来、県内はもとより国内外を問わず、様々な分野で社会に貢献する人材を輩出している。毎年60%前後の生徒が国公立大学に進学しており、東大、京大、東北大等の難関大学をはじめ、医学部医学科への現役合格者数も高水準で推移している。

その一方で、少子高齢化が進む地域社会の中では社会的な刺激が乏しく、幅広い視点をもって社会全体を見渡し、自らが主体的な構成員として社会に参画していく立場であるとの自覚を育むことが難しい。このため、幅広い将来ビジョンを描けないまま既存の狭い範囲の中で進路選択をすることで満足している生徒がまだまだ大勢である点が、本校の課題である。

このような中、平成30年度、文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けることができた。研究テーマとして「エビデンスを基に議論を積み重ね、国際社会で活躍するグローバルサイエンスリーダーの育成」を設け、データ処理の仕方や統計学を学び、課題研究、国際交流に力を入れているところである。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

横手地区の中学校卒業者は今後10年間で3/4程度に減少することが予想されている。第7次秋田県高等学校総合整備計画によると、横手地区の複数校を統合・再編することになっており、中学校卒業者が減少する中でも、適正な学校規模を保ちながら教育環境を維持していく計画である。

また、本校を志願する生徒数は近年横ばい状況で、今後、一層進む生徒数の減少を考慮すると、志願倍率の大幅な上昇は望めそうもない。このようなときこそ、本校の魅力の前面に打ち出すことで、県南随一の進学校として地域住民・生徒・保護者の期待に応えていかなければならない。

③ 目指す方向性や学校像

本校は、「知・徳・体」の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、「剛健質朴」の校風の下、「青雲の志」を抱き、「天佑自助」の精神で、国内外を含む将来社会の幸福と発展に貢献する人材を育成する。そのため、すべての教育活動において「チャレンジ精神」の育成を念頭に置き、これを通して、グローバル化が進む高度科学技術社会を牽引する人材の育成を図り、人格の完成と進路目標の達成を含めた自己実現を支援していく。

④ 5年間で達成を目指す具体的目標

- ・インターンシップはじめ自己啓発を含む各種体験活動への参加を促進する
- ・現役での大学等合格率90%以上
- ・現役での国公立大学合格率70%以上
- ・東大はじめ難関大学、医学部医学科進学者40名以上

具体的な取り組み等

① 進路実現に向けた確かな学力の育成 ～青雲の志・天佑自助～

生徒一人一人の能力・適性に応じた学習指導や進路指導を通じて、各生徒がそれぞれの進路実現ができるよう、自ら学び、探究し、解決しようとする姿勢や能力を備えた確かな学力の育成を目指し、自己の可能性に挑む高い志を育成する。

② 心豊かでたくましい心身の育成 ～剛健質朴・文武両道～

部活動や学校行事等への積極的な参加による文武両道の実現を通じて、剛健にして質素純朴な心と身体、仲間を思い支え合う心など強い精神力と協調性、自主自立の精神に富む、心豊かな人間性を育む。

③ 課題研究活動を通じた主体的な態度の育成

S S Hの活動や自助（総合的な探究の時間）を活用し、課題設定から課題の探究活動によって、主体的に問題や課題を見出し、その原因や理由を探り解決あるいは克服の手段や方法を研究する姿勢を育てる。

④ 国際交流の活性化を通して情報活用力を含めた国際性の育成

ICT を利用した国外の高校生との交流や海外研修旅行を通して、グローバルな情報を活用して物事を考える力、文化の違いを理解し価値観の異なる他者との交流で国際社会を生きる開かれた心など、国際性の育成を図る。

⑤ 人間尊重の精神及び公共の精神の涵養と規律ある生活習慣の確立

学校生活のあらゆる場面を通して、生命や人権の大切さを教え、倫理観や規範意識を涵養し、多様な価値観を認める人間尊重の精神、社会の一員として求められる公共の精神の育成を図る。